

# 学 位 論 文 要 旨

保健医療学研究科 保健医療学専攻

平成 27 年度 入学

氏名 西脇 政子

## 学位論文研究指導

教員氏名 高倉伸有 教授

## 学位論文題目

A double-blind study on acupuncture sensations with Japanese style of acupuncture: comparison between penetrating and placebo needles

## 学位論文の内容要旨(1,000字以内)

### 【背景】

鍼感覚は鍼の効果に深く関わりとされ、その重要性が指摘されているが、臨床研究で用いられる従来のブラインド鍼では、刺入/圧迫深度を精確に設定できないため、鍼感覚を体系的に検討することはできない。そこでまず、世界で最も多用されている鍼感覚質問紙 Massachusetts General Hospital Acupuncture Sensation Scale (MASS) を和訳してその信頼性と妥当性を検証し[Nishiwaki M, et.al. Evid Based Complement Alternat Med 2017]、精確な刺入/圧迫深度の設定が可能な術者-患者ブラインド鍼によって生じる詳細な鍼感覚について、日本語版MASSを用いて検討した。

### 【方法】

鍼経験のある健康な50名を対象とし、ダブルブラインド用18号5mm刺入鍼、10mm刺入鍼、1mm圧迫鍼、2mm圧迫鍼を、ランダムな順序で左右合谷穴に弾入旋撚で刺入し、各深度で30秒間旋撚した時の鍼感覚(日本語版MASSの12感覚、感覚の広がり、痛み強度)を尋ねた。また被験者と術者に、推測した鍼の種類とその自信度について尋ねた。

統計解析は、各鍼におけるMASS各感覚の強さ、MASS index(鍼感覚全体の強さ)、感覚の広がり、痛み強度についてはFriedman検定を、感覚の発生頻度はCochran's Q検定を用いて行った。ブラインド効果の検討は、Friedman検定による推測の自信度の比較と $\kappa$ 係数により行った。また因子分析を用い、被験者の推測と鍼感覚との関係を調べた。

### 【結果・考察】

MASSの鍼感覚のうち「ズーンと重い」は、発生頻度、強さともに、10mm刺入鍼において顕著で、この感覚は深く刺入した時の特徴だと考えられた。また、深度が異なる各刺入鍼、各圧迫鍼間のMASS index、感覚の広がり、痛みの強度には有意差が認められた。

被験者、術者とも、各鍼間の推測の自信度は同等で、 $\kappa$ 係数は低かったことから、ブラインドはほぼ成功したと考える。被験者は「ズーンと重い」「ズキズキうずく」「鈍くはっきりしない」感覚を、鍼推測の手掛りとしていた。鍼感覚が似ていた5mm刺入鍼と1mm圧迫鍼、10mm刺入鍼と2mm圧迫鍼の各組合せは、患者ブラインドに特に有用であることが示唆された。

これらは、臨床研究で用いるブラインド鍼による刺激深度の精確さの重要性を示すものであり、体系的な鍼感覚研究の基盤になる結果であると考えられる。

### 【結語】

本研究は、精確な刺入/圧迫深度のダブルブラインド鍼による詳細な鍼感覚を明示し、僅かな刺入/圧迫深度の違いが鍼感覚に大きな影響を及ぼすことを明らかにした。